

農学における情報利用ゼミナールレポート

39 - 116233 農学国際専攻 M1

今回の演習では那須野ヶ原における農業を支える用水路を管理する水土里ネット那須野ヶ原事務局と、かつて那須の特産品であった唐辛子を扱う吉岡食品工業の畑・工場・販売所を見学しお話を伺った。

<水土里ネット那須野ヶ原>

遠隔集中管理システムによって用水路を流れる水量を調節している事務所である。すべての用水路は網の目状に広がっており、一つの門を開閉すると全体に変化が生ずることもある複雑なものとなっている。その管理は毎日、人の手により行われている。今までの開閉記録が残されているので自動化プログラムを開発することも可能だろうが、毎日の操作は非常事態への備えとして役に立っているのかもしれない。

また水の管理だけでなく、エコ活動・レクリエーション活動にも力を入れているという特徴があり、大小様々な発電所や那須野ヶ原ウォーターパークを設置している。特に小規模水力発電は、少し前にニュースで注目の技術として取り上げられていたのを見たことがある。土木工事が不要であり約一週間で作業が完了するため、本来の用水路の受益者である農家の方にも負担はほとんどない。雨量は一定ではなくエネルギー源としては不安定な面もあるが、今後期待できる技術である。

幼いから日本は資源に恵まれない国であり、エネルギー自給は困難であると教わってきた。しかし実際には豊かな自然と先人が築き上げてきたインフラがあり、うまく活用することでエコなエネルギーを生み出すことができる。現在利用されていない資源に大きな可能性を感じた。

<吉岡食品工業>

唐辛子の輸入製造販売会社であるが、唐辛子による町おこしや情報発信も積極的に行っている。つい先日、「かつて唐辛子の一大産地であった大田原の小学校で、子供たちが唐辛子の苗を植える体験学習をした」というニュースを見た。おそらく吉岡食品工業さんも関わっていた実習だったのだろう。

見学した畑は残念ながら縮小された状態であった。本来であれば赤いじゅうたんを見られたかと思うと口惜しい。道路から少し入ったところで、ぬっとと存在するフィールドルーターの姿に若干の違和感を覚えた。普段、畑に接していないため無知であるだけかもしれないが、モニタリング装置が設置された畑はまだ少ないからであろう。食の安全安心のために生産・流通の「見える化」が求められているので、今後このような畑風景が一般的になるだろう。需要としては発展途上国の畑の方が高いのかもしれないが、フィールドルーターのような機器を設置すると盗難の危険性があると聞く。機械のメン

テナンスも含めて、まだ多くの課題が残されているようだ。

工場では保管庫・加工現場・殺菌という一連の流れを見せていただいた。トレーサビリティや異物検知、殺菌技術は私自身の研究と関連のある分野である。普段論文や学会発表でみかけているような技術が、実際に工場のライン上で用いられている様子を見ることができて、かつこのような技術にはさらなる改良が必要とされていると聞いて研究のモチベーションが高まった。

販売所である道の駅では唐辛子を原料に使った多くの加工品がお土産物として並べられていた。唐辛子せんべいのような昔からなじみのあるお菓子から、唐辛子ジェラートや唐辛子ようかんといった一風変わったものまで、実にバラエティに富んでいた。地域全体として特産品を盛り上げていこうという勢いが感じられた。

私は現在まで比較的都会に位置するところに住んできたため、「町おこし」というよく聞く単語に実感が伴わないままであった。今回その一端に触れることができ、その目的は私が思い描いてきた「町を有名にする・人口を増やす」というものより、「地元を愛する心を育てる」ことなのだろうかと感じた。